

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 (北陸)	◎	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・高速道路内の店舗において、土日や祝日の人流が顕著に戻っている。
	◎	コンビニ（営業）	来客数の動き	・全国旅行支援の影響により、来客数に変化が出てきている。
	◎	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・観光都市である当地では、10月の3連休には県外からの客が大変多く、その後は全国旅行支援により観光客が継続的に来ている。観光客の動きは良くなっているものの、10月下旬からは県内客の外食の動きが落ち着きをみせている。物価上昇による買い控えや、県内のプレミアム付食事券を使い切った人が出始めていることが主な要因だとみている。
	◎	スナック（経営者）	来客数の動き	・開店しても休業状態の日もあるが、3年ぶりの客を始め徐々に来店する客や、新たに常連になりつつある客もあり、変化が出てきている。周辺の店では若い人たちが来ているようである。
	◎	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・10月11日に全国旅行支援がスタートして予約が殺到し、予約システムが数日間ダウンするなど、一度に予約が増加している。
	◎	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・総売上は前年同月比で240%、累計でも187%と改善しているが、新型コロナウイルス感染症発生前の売上との比較ではまだ64%で、累計でも70%である。
	◎	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・全国旅行支援により、稼働率は前月より10%以上アップし、新型コロナウイルス感染症発生前と同じ水準まで回復している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・県民割やインバウンドの再開で来客数が増加し、売上は新型コロナウイルス感染症発生前に戻っている。その反面9月と比べて1人当たりの単価が低く、客の財布のひもはまだ固いようである。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・人流が増加し、売上は新型コロナウイルス感染症発生前に戻りつつある。
	○	スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・キャッシュレス・消費者還元事業や自社の販促強化により来客数は下げ止まりし、販売量が大幅に伸びたことで一時的に上向きとなっている。
	○	コンビニ（店長）	単価の動き	・来客数は減少しているが、1人当たりの買上単価が上がっているため売上は増加している。価格が高いという声は聞くが、今のところ買い控えが起こっている様子はみられない。しかし、手頃なおにぎりが100円から135円に価格改定するなど、全商品で急激な値上げが行われており、客はスーパーなどと比べてコンビニに割高感をより強く感じるようになってきている。値上げがあっても客は変わらずに来店しており売上も上昇しているため、景気はやや良くなっていると考えられる。
	○	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響については油断できないが、経済対策もあって旅行や飲食などは少しずつ好転しているようである。
	○	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況も落ち着いてきたなか、政府の施策も功を奏して上向きになっている。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波のピークを過ぎてきたことや、全国的な行動抑制がなくなって全国旅行支援などの施策効果もあり、来客数と買上率が向上してきている。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・全国旅行支援が始まり県外客の団体利用が増加してきたが、飲食店への恩恵は少ない。県のプレミアム付食事券の販売や県民割が終了したことで、個人客の動きが鈍っている。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・売上はまだ新型コロナウイルス感染症発生前の70%程度だが、旅行客や宴会の利用が徐々に増加している。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少や全国旅行支援によって、今月に入って観光客が増加している。夜の街にも人出が増えている。
○	タクシー運転手	販売量の動き	・観光や研修、宿泊送迎などの仕事が多く入るようになっている。	

○	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・販売台数は数か月前より伸びているが、思った以上に新商品の勢いがなく、販売計画を下回っている。
○	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・住宅展示フェアの来場者数が増加傾向にあり、少しずつだが活気付いてきた印象を受ける。
□	商店街（代表者）	お客様の様子	・飲食店は金曜の夜などはにぎわいが戻っているが、日によって差が激しくまだ回復したとはいえない。衣料品も消費喚起策が実施されている割引期間中にはにぎわうが、それ以外は低迷していて、客の財布のひもは固いままである。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・中心商店街発行のプレミアム付商品券の販売は予想以上に好評で、販売日から4日間で1500部が完売した。期待の高さを感じ、各店舗の売上に好影響が出ると期待している。
□	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・今まで不振だったアパレルや雑貨が復調している。気温が低下したことや外出及び旅行による需要で、コートやブーツといった防寒を中心とした商材に動きがある。さらに、会合やパーティー、イベントなどの手土産や記念品といった需要も外販で動き始めている。
□	百貨店（販売担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少と全国旅行支援の開始により、週末を中心に外出が増えている。若い世代はレジャーを含め県外へ出掛けることが増え、50代以上も旅行などが増えているようである。週末や人気イベントでの来客数がやや減少している一方で、外出需要やハイキングに必要な商材、気温が低くなったことで防寒商材にも動きが出ており、プラスとマイナスの要素が混在している。
□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が抑えられていることや、プレミアム付商品券の効果もあり、来客数は前年と比べて少し増加している。
□	家電量販店（本部）	単価の動き	・買上単価は伸びていないが、来客数は戻ってきている。
□	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が収まってきており、来場者数の増加を期待していたが、3か月前と余り変わらない状況が続いている。
□	自動車備品販売店（役員）	来客数の動き	・冬季用品は例年並みの動き出しである。全体的な集客は回復傾向だが、買上点数が戻っていない。特に高額商材やドライブレコーダー等の話題になる商品の問合せが回復していない。
□	住関連専門店（役員）	来客数の動き	・絶対的な来客数の減少が著しい。
□	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いているが、思っていたよりも来客数の増加につながっていない。
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・県民割や全国旅行支援の施策により個人旅行は好調に推移しているが、団体旅行はまだ件数が少ない。トータルで見ると売上金額は、まだ新型コロナウイルス感染症発生前の半分程度である。
□	通信会社（職員）	お客様の様子	・客の当社へのニーズが変わらない。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・3か月前と同様に放送、通信サービス共に新規契約者数が前年同月と比べて順調に推移している。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・景気の影響だけではないとみているが、新規契約者数が伸び悩んでいる。
□	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・全国旅行支援がスタートし、個人旅行客の動きはやや増加傾向にあるものの、海外からのインバウンド客や団体旅行客の動きは鈍く、全体としては変わらない状況にある。
□	パチンコ店（経理）	販売量の動き	・売上に大きな変化はみられない。
□	その他レジャー施設 [スポーツクラブ]（総支配人）	お客様の様子	・現在、メインで会員となっている高齢者の入会者が少ない。40～50代の女性向けプログラムにはネットを通じて反応が出てきているが、子供の教室はほぼ現状維持である。新型コロナウイルス感染症の影響でスタッフの手配が付かない状態が2～3か月間続いており、売上の減少に直結してきている。少しずつだがイベントでの集客ができるようになってきている。

	□	美容室（経営者）	来客数の動き	・前月、今月共に来客数が5%近く前年より減少している。売上が大きくなる年末に向けて心配である。
	□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・個人の新築注文住宅の受注が安定しない反面、個人の住宅リフォームにおける大型物件や、法人関係の店舗及び社屋に対する受注が、新築住宅受注の不足をフォローしている。
	□	住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・来客数が低調なことに加え、客の質の低下を感じる。中高級層の動きが特に悪いようである。
	▲	一般小売店〔事務用品〕（店長）	お客様の様子	・客の買上単価や買上点数、店舗での滞在時間が減少している。
	▲	一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・ここ3か月は販売量、来客数共に減少しており、特に今月は販売量の減少がひどくなっている。
	▲	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・全国旅行支援が始まり、消費者の関心が旅行や観光へシフトしている。また、原材料価格の高騰や円安の影響も加わり、前月まで好調に推移していた高額商材やインポートブランドにおける売上の伸び率が鈍化している。
	▲	スーパー（店長）	単価の動き	・物価の上昇により各商品が値上げされている。そのため、果物や嗜好品の売上の落ち込みが大きい。無駄な商品を買わない傾向になっている。
	▲	スーパー（総務担当）	単価の動き	・光熱費や生活用品の値上げにより、今まで以上に買上単価が低くなっている。
	▲	家電量販店（店長）	販売量の動き	・高付加価値商品などの販売量が落ち込んでいる。
	▲	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・円安の影響などによる物価上昇が続いており、個人消費の面で購買意欲の減退がみられる。
	▲	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・客の問合せやイベントの来場者数が想定を下回っている。現在折衝中の客の動きも遅く、時間が掛かることが多い。予定どおりに話が進まない状況が続いている。
	×	スーパー（店舗管理）	販売量の動き	・物価高や電気料金の値上げ、最低賃金の是正など経営的には苦しい状態が続いており、公共料金のように単に一律値上げをすれば済む業態ではない。企業努力は当然だが、それでは済まない現状である。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・前年までは、9月に販売する季節限定酒を約1週間で完売していたが、今年は10月に入ってもまだ残っている。10月に酒類の値上げがあったが、値上げ前に仕入れた在庫がまだ残っている状態である。
企業動向関連	◎	—	—	—
(北陸)	○	精密機械器具製造業（財務担当）	受注量や販売量の動き	・客や地域によってばらつきはあるが、全体として受注量が増加している。
	□	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、売上は変わらず推移している。
	□	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・ロシアによるウクライナ侵攻の長期化に伴う供給制約や原材料価格の高止まり、製品値上げの影響が大きく、回復は足踏み状態が続いている。
	□	建設業（経営者）	それ以外	・外で酒を飲み帰宅する際に必ず代行タクシーの運転手に景気を聞かすが、決まって悪いという答えである。
	□	輸送業（役員）	取引先の様子	・当社の主要荷主は薬品関係であり、ほかにも給食配送、空瓶回収、新聞の送達、家電配送であるため、景気の影響を余り受けていない。
	□	輸送業（管理会計担当）	受注量や販売量の動き	・物量の回復には至っていない。国際貨物や倉庫関連は堅調であるが、国内輸送部門の物量回復が鈍くなっている。
	□	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・今期6月以降は販売量、受注量共に変化はない。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、以前ほど景気の低迷感はないが、政府や自治体の新たな補助金施策なども特段なく、現状維持というところである。
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・法人客、個人客共に、活発な話が余りなく、問合せも少なくなっている。
	□	司法書士	取引先の様子	・事業者間での売買があっても、売主側の債務整理による処分といったもので、景気が良い状況のものではない。

	□	税理士（所長）	取引先の様子	・依然として製造業、建設業については堅調である。しかし、一般消費者を対象とする食料品販売事業者では価格転嫁が難しい状況が多く、利益率も売上自体も低下している。一方で、体力のある一部の大手企業では値下げの動きがあり、中小の小売業は非常に厳しい状況に置かれている。
	▲	食料品製造業（経営企画）	それ以外	・原材料に限らず、コストは軒並み上昇し続けている。価格転嫁のための製品価格の引上げにも限度があり、吸収できるレベルではない。収益構造が崩壊しつつあり、構造改革が必須だと考える。
	▲	繊維工業（総括）	受注価格や販売価格の動き	・受注は引き続き堅調であるが、原材料価格の高騰に拍車がかかっており、特に電気料金の引上げが大きく収益を圧迫している。
	×	金融業（融資担当）	取引先の様子	・売上や受注量が新型コロナウイルス感染症発生前との比較で80%程度であるのに対し、原価が少なくとも前年比で10～15%は上昇しており、業況が厳しくなっている取引先が増えている。
雇用 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・例年であれば一旦求職が落ち着く時期であるが、僅かながら増加している。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・営業広告、求人広告、不動産広告が9～10月にかけて堅調に推移している。劇的に増加しているわけではないが、夏頃と比較すると確実に伸びており、秋の行楽シーズンやイベントの増加が影響したとみている。
	○	民間職業紹介機関（経営者）	周辺企業の様子	・最近になって、企業の先行きに向けた生産対応や営業活動といった前向きな人員採用の動きが増加しており、人材紹介や人材派遣の問合せが増えている。
	□	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数に余り変化がない。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・ハローワークに人が来ない状態である。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・製造業の求人数が多い状況が継続している。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前年同月に比べて増加が続いているが、慢性的な人手不足や、会社の人員構成で高齢者の比率が高いため求人を出している事業所が多いことから、景況が好転したとは言いがたい。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—